

國葛木ノ下ノ郡ノ當麻ノ郷ニ曳付ツ、然レドモ心ノ内ノ願ヲ不遂シテ、其木ヲ久ク置タル間ニ
其人死ヌ、然レバ此ノ木亦其所ニシテ徒ニ八十餘年ヲ經タリ、其程其郷ニ病發テ、首ヲ舉テ病ミ。
痛ム者多カリ、是ニ依テ亦此ノ木ノ故也ト云テ、郡司郷司等集テ云ク、故某ガ无由キ木ヲ他國ヨ
リ曳來テ、其ニ依テ病發レル也、然レバ其子宮丸ヲ召出テ勘責スト云ヘドモ、宮丸一人シテ此木
ヲ難取棄シ、更ニ可爲キ様无レバ思ヒ煩ヒテ、其郡ノ人ヲ催シ集メテ、此木ヲ敷ノ上郡ノ長谷川
ノ邊ニ曳棄ツ、

〔時還讀我書下〕丁亥十〇文政年春、羽州庄内ニ一種ノ瘡アリ、其證恰モ脱疽ノ如ク、足指黒腫シテ腐
脱ス、或ハ一指或ハ二指三指ニ及ブ、必研斷シテ愈タリ、甚キハ踝骨上マデ及スモノアリキ、亦コ
レヲ研テ死スルモノハ一人モナカリキト、又イカナルコトニカ、蒼蠅ヲ擦傳シテ効ヲ得タリシ
コトモアリト、其藩ノ大山洞甫ノ話ナリ、青腿牙疳ノ類ニモアルベキカ、